



六中だより

～学校教育目標～
“学力と情操”
“健康と忍耐力”
“勤労と責任”

「実行に移す決意と習慣」

校長 佐藤 光宏

明けましておめでとうございます。令和7年、西暦2025年。そして、今年度最後の三学期がスタートしました。

お正月は楽しく、充実した日々を過ごすことができたでしょうか。大きな事故の報告もなく、全員がそろって三学期の新しいスタートができたことを本当にうれしく思っています。

さて、「一年の計は元旦にあり」と言われますが、この言葉は何事も最初が大切で、一年間を充実させるためには、年の初めに自分で目標を決めて取り組むことが大事であるという意味です。一つ年をとるということは、身体的に成長することと併せて、人間として物事を考えたり、判断したりする力や相手を思いやる優しい心も大きく成長していく必要があります。特に物事を考え、実行する力や心の成長のためには、目標をもって「学ぼうとする前向きな姿勢」が大切です。著名な夏目漱石も「自分のしていることが目標になっていないほど苦しいことはない」と目標をもつことの大切さを語っています。そこで、新学期を迎えた今日は、「実行に移す決意と習慣」ということについてお話をします。

人間は、もともと積極的に行動する生き物であると言われていています。しかし、実際には、行動力のある人とそうでない人がいます。その違いは、何か。それは、「今、何をすべきか」を考え、決定し、「行動に移す習慣が身に付いているかどうか」が分かれ目となります。

まず、第一に自分で「目標を決める」ことが大切です。「蒔かない種は生えない」と言われるように、花や野菜に限らず、勉強やスポーツでも種を蒔かなければ何も実りません。目標を決めることは、自分を生かすチャンスという種を蒔くことです。

第二に、目標に向かって「やるべきことを決める」ことです。まず始めにやること、それができたら、次に、いつ、どのようにやるかという順番と方法を決めます。

そして、第三は、「実行に移す」ことです。

何事もスタートには力が必要です。体育大会の100m走を思い出してください。スタートの時には、とても大きな力がいらいます。でも走り出してしまうとそれほど力はいらしません。これと同じように、自転車でも自動車でも、動き出すときは一番大きな力が必要になるのです。

このように、実行に移す習慣を身に付けることで、一人ひとりの夢や願いが一步步実現に近づきます。ぜひ、自分の力を信じて努力できる三学期にしてほしいと思います。

三学期は、それぞれの学年の学習や取組など、身に付けるべきものをすべて自分のものにして、次の学年に備えるまとめの学期です。一年生は二年生へ、二年生は三年生へというように、今の学年のやるべき学習を終えて、それぞれ一つ学年が進級します。とくに三年生は、中学校を卒業し、自分で行き先を決めた進路へと進んでいきます。今まで努力したり、学んだりしたことを生かしながら、最後のよいまとめとなる学期になることを期待しています。

全員で頑張ってください。

生徒会リーダー研修会

12月7日に生徒会リーダー研修会が実施されました。83回目となる今回は「思いをかたちに『よりよい府中市』の未来を担う」をテーマに市内の各中学校生徒会役員と府中市教育長、府中市副市長との間で意見交流がなされました。「よりよい府中市」の実現のために、各学校が考えた方策を話し合うことで、他校の取り組みを学ぶことができ、有意義な時間を送ることができました。



どんど焼きボランティア

1月11日に六中生26名が「どんど焼き」ボランティアに参加しました。どんど焼きの準備として組み立てるための竹を割ったり、その竹をくみ上げた後に藁をつけたりする作業を行いました。当日は風が冷たく、寒い日でしたが、子供たちは汗をかきながら一生懸命作業を行っていました。文化センターの方から「ぜひ来年も」と声をかけていただいた六中生でした。



部活動等の実績



女子バスケットボール部

☞ 第九ブロック中学校バスケットボール新人大会 第4位



ハンドボール

☞ 第33回U-15ジュニアセレクトカップ・ハンドボール大会
東京都選抜 女子優勝 男子優勝



吹奏楽部

☞ 東京都中学生アンサンブルコンテスト 金管八重奏 銀賞